

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒226-0016  
神奈川県横浜市緑区霧が丘3-1-20

E-mail jimu@yokohama-steiner.jp

Website https://yokohama-steiner.jp/

幼児児童生徒数 男子 61名 女子 53名 合計 114名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「芸術としての教育」をその教育理念として、ESDを「世界の全体性を人間に取り戻す教育アプローチ」と捉え、教育を芸術的に編成することで実効性のあるESD実践を行っています。芸術的な活動によって子どもたちは全身全霊を使って学習に関わることができるばかりでなく、事象と事象を有機的に結びつけてまとめある全体性へと高めることができる芸術の作用が、学びと学びを紡ぎ、子どもたちの内に秩序ある世界像を編み上げていくからです。このようなアプローチが、当校のあらゆる教育活動の基盤となっています。文部科学省ESD重点校形成事業およびユネスコ・パリ本部機関包括型アプローチプロジェクトへの採択はそのことが評価されたと理解しています。

今回の報告では、

- (1) 教育の変容に関わる活動、
  - (2) 循環型社会へのビジョンを育む3年生の「暮らしと仕事」学習、
  - (3) 多文化共生社会に向けた多様な取り組み、
  - (4) 教育の柔軟性と多様性を保障する社会環境づくりへの取り組み、
- を取り上げました。

上記(1)は、先に挙げた教育理念そのものに関わる活動です。SDGs 目標 4 の「質の高い教育をみんなに」への取り組みにおいて、「そもそも教育における質とは何か」を問うことが SDGs 推進の必須事項と考えます。

上記(2)(3)は、その具体的な事例です。直接的には SDGs 目標 7, 10, 12, 13, 14, 15 に関わる内容です。

上記(4)は、これらの実践を保障する社会基盤づくりへの取り組み事例です。GAP の「ESD に対する政策的支援」に推進力を提供し、SDGs 目標 4 実現につなげます。

### ① 教育の変容に係わる活動

「世界の全体性を人間に取り戻す教育アプローチ」の基盤である教育の変容に向けて、以下のような取り組みを行っています。

- (1) 動と静をバランスよく組み合わせた芸術的な授業編成、
- (2) 物語りや詩、歌、絵画造形などの芸術活動を教育課題と結び付ける教授法、
- (3) 教科間の課題連携、および、
- (4) 学年を越えてスパイラルを描くように発展していくカリキュラム、
- (5) 取り組む単元の大きな全体性を示した上で個別要素に入っていく教授法

などを柱に、世界の像を自らの内面で統合する力を育てています。

その実感のある生徒は、「あらゆるものはつながっているんだ!」という驚きの言葉で表現しました。これらの活動成果は、毎学期ごとの学習発表の場「月例祭」での発表や、9年生の卒業研究プロジェクトにおいて確実な手応えとして返ってきています。最近では、教職員も保護者も、これらの発表時期を祝祭のように楽しみに待つようになりました。

今年度、本活動に関係して取り組んだユネスコ関連のプロジェクトは、以下の3プロジェクトです。

- (1) 文部科学省主催 ESD 重点校推進事業（サステイナブルスクール）、
- (2) ユネスコ・パリ本部 機関包括型アプローチプロジェクト（クライメイトチェンジ・アクション）
- (3) 日本ユネスコ協会連盟主催 第8期ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト
- (4) 当校の教員が文部科学省主催「SDGs こどもワークショップ」（2017年11月パシフィコ横浜）のワークショップ・ファシリテーターを担当

当校は、「世界の全体性を人間に取り戻す教育アプローチ」としての ESD を、上記すべての事業の要と位置づけて取り組みました。

### ② 循環型社会へのビジョンを育む「暮らしと仕事」（3年生）の学習

1年間を通じた「暮らしと仕事」（3年生）プロジェクト学習に、本年度は第

8期ユネスコスクール ESD アシストプロジェクトの支援を受けて取り組みました。まず、牧畜生活の学びとして羊の毛刈り体験やバターづくりを行い、さらに、畑づくり、米づくりなど、自らが大地に働きかけることで糧を得る営みを学びました。米づくりは地域の里山の谷戸に水田をお借りし、谷戸の貴重な湧水を利用した地域の稲作文化にも目を向けました。並行する手仕事専科では、生活のなかで使う道具を編み物で製作し、刈り取ってきた羊の毛を洗い、梳いて、フェルトに仕上げ、花瓶敷きや手鞆など実生活で使える作品にしました。そして、自然の厳しさから身を守るための覆いとしての家づくりに取り組みました。世界各地の異なる自然環境下に多様なスタイルの家があることを学んだ上で、この地域にある里山の竹林の竹を切り出して2階建ての家を自分たちで建てました。こうして、住まいと仕事が自然との関係において成り立っていることを子どもたちは学び、かつての里山型循環社会が生み出した文化にも触れることができました。

### ③ 多文化共生社会に向けた多様な取り組み

ESD や SDGs への取り組みの根幹を支えるものとして、多元的な文化への受容性や理解力の育成が挙げられると思います。なぜなら、「世界の持続不可能性」の根底には、多元的な文化との共生を否定し自らの利益のみを追求するエゴイズムが存在するからです。わたしたちは教育の営みを通して、これらのエゴイズムに抗していく力を子どもたちの内に育む必要があります。そのために、私たちは文化の根っこである「ことば」に取り組んでいます。母国語とは違うトーンや響きをもつ英語と中国語の二か国語 1年生から体験的に学ぶことで、言葉のもつ根源的な質の違いを子どもたちは生きるのです。また、言葉とともに、例えば中国の旧正月に水餃子をつくって食したり、イギリスから日本に移住した方の逆カルチャーショック体験をうかがったりすることで、自国文化を相対化する視野を培います。ここでも「ことば」を通じた身体の深い部分での体験が伴うことによって、これらは単なる学びを越えた学びとなります。高学年では、開発教育協会のワークショップ教材を用いた「100人村」ワークなどにも取り組みました。9年生の卒業プロジェクト研究で選ばれたテーマにも、こうして培われた多文化共生的な視野が活かされたものがたくさんありました（「コーヒーをめぐる労働問題」「ユダヤ人について～その歴史と足跡～」 「アイヌとカムイ」など）。

### ④ 教育の柔軟性と多様性を保障する社会環境づくりへの取り組み

ここまででご報告した「世界の全体性を人間に取り戻す教育アプローチ」は着実に成果を上げてきていますが、この取り組みを真に持続可能にするためには、社会の側にこのような多様な教育を保障する仕組みが必要です。そのための取り組みとして、

- (1) 神奈川県および横浜市の教育委員会との公民連携事業への参加、
- (2) 全国のフリースクールと連携した多様な学び保障法を実現する会への参加協力、
- (3) 同じ教育理念を共有する学校間のつながりによる質保証の取り組み、

等を行いました。

(1)の事例としては、教育委員会との連携による学校見学会の開催や事業提案の取り組みなどがあります。

(2)の取組として、2017年度文部科学省「民間団体の自主的な取組の促進に関する調査研究」の中間報告会の運営に参加し、報告も行いました（2018年2月25日早稲田大学）。

(3)の取り組みとして、日本シュタイナー学校協会連携型教員養成講座に当校主催の教員養成基礎講座も連携を進めています。

このように、教育の現場が自らの良心と現実感覚によって直接的に社会制度に働きかけることができるのは、独立性が担保されたフリースクールだからこそです。このことが、GAPの「ESDに対する政策的支援」に推進力を提供し、SDGs目標4実現につながるものと考えます。



① ワーク「地球の食卓」



② 里山から竹材を切り出す



③ 台湾明道大学との交流



④ 多様な学び実践研究フォーラム

(2) 活動の詳細

① 活動内容※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(教職員保護者ぐるみの ESD 基盤づくりへの取り組み)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

開発教育協会『ワークショップ版・世界がもし 100 人の村だったら』 開発教育協会『写真で学ぼう! 「地球の食卓」』
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校の教育課程は、ユネスコの教育理念（学習の4本の柱）、ASPnetの4つの基本活動分野（国連優先課題の理解、ESD、平和と人権、異文化理解教育）を実現するものであり、活動の概要①「教育の変容に係わる活動」に5つの要素として示した具体的なカリキュラムと教授法に裏付けられるものです。

その実践を通じて、教科横断的な学び、アクティブラーニング、演劇によるESDアプローチ、暗示型道徳教育、コンピュータの本質を掴み取るIT教育アプローチなどが自ずから織り上げられています。

これらの具体的な報告は、プロ記者の取材によるルポルタージュとして当校のWebサイト上に公開しました。

- ① 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・ 毎週行われる教員会（担任会、学年会、専科会を含み、校医も参加することもある）による、教育的課題や学内の動きについての横断的情報共有を行っている。
- ・ 毎月行う保護者会でのクラスの様子や課題の共有。
- ・ ほぼ毎月行っている保護者教職員およびNPO会員による運営会議での学習状況の共有および学内の課題や時事のテーマについての話し合いや研修。
- ・ 理事会（運営委員会）による学校全体への見通しをもった運営協議。

- ② ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

前項の教員会議において、参加教員やオブザーバーの多様な視点からの発言によって活動の状況を特徴付けることにより、立体的に教育内容や教育活動の状況を把握しています。

また、学校運営全体については中期計画の策定を行ったので、そのスケジュールに照らして随時執行状況を確認しています。

ASPnet、ESD重点校推進事業、機関包括型アプローチプロジェクト、ESDアシストプロジェクトなどへの報告やアンケートへの回答も自己評価に値するものと理解しています。

- ③ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ・ プロ記者の取材によるルポルタージュを当校 Web サイト上に公開
- ・ 文部科学省主催「SDGs こどもワークショップ」(2017 年 11 月パシフィコ横浜)への人的協力(前述)
- ・ 他校への人的協力(多摩市立第 1 小学校へのワークショップ提供、私立湘南学園中学校高等学校への中国語通訳支援)
- ・ 全国 7 校のシュタイナー学校が集まる合同研修の場において、永田佳之先生より横浜の取り組みが紹介された
- ・ ユネスコスクール公式サイトの上の当校のページを徹底活用し、活動記録と資料を集約している

- ④ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

- ・ 神奈川県ユネスコスクール連絡協議会への参加、第 3 回ユネスコスクール神奈川県大会(2017 年 9 月、私立湘南学園中学校高等学校にて)の運営協力
- ・ ASPUnivNet 東海大学教養学部との連携(2017 年 10 月ユースセミナー参加、年間活動報告書制作協力)
- ・ ASPUnivNet 玉川大学教育学部との連携(来年度の神奈川県大会の提案など)
- ・ 台湾明道大学教育学部の見学受け入れを私立湘南学園中学校高等学校と共同で実施(2017 年 8 月)
- ・ 本校主催の教員養成に ASPnet の先生をお招きした(横浜市立永田台小学校より 2 名)。
- ・ 多摩市立第 1 小学校への人材協力(ワークショップ提供)
- ・ 横浜市にはる里山交流センターの支援による教育活動(活動の概要の項参照)
- ・ 新治市民の森愛護会の支援による教育活動(同)
- ・ 学園が結成している十日市場西田公園愛護会による講演保全美化活動(8 年生、横浜市緑土木事務所との連携事業)
- ・ 霧が丘多目的公園連絡協議会の運営に参加(野球部)
- ・ 霧が丘三丁目自治会および十日市場町自治会への参加
- ・ 横浜子ども支援協議会を通じた横浜市教育委員会との事業連携(見学会の開催など)
- ・ 神奈川県学校フリースクール等連携協議会を通じた神奈川県教育委員会との事業連携(見学会の開催など)
- ・ 日本シュタイナー学校協会への参加(連携型教員養成講座への講座提供など)
- ・ 多様な学び保障法を実現する会への参加(第 5 回多様な学び実践研究フォーラムの運営協力)

⑤ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）  
※チェック事項 2-4 に対応

前項と重複しますが、

- ・ 神奈川県ユネスコスクール連絡協議会への参加、第3回ユネスコスクール神奈川県大会（2017年9月、私立湘南学園中学校高等学校にて）の運営協力
- ・ ASPUnivNet 東海大学教養学部との連携（2017年10月ユースセミナー参加、年間活動報告書制作協力）
- ・ ASPUnivNet 玉川大学教育学部との連携（来年度の神奈川県大会の提案など）
- ・ 台湾明道大学教育学部の見学受け入れを私立湘南学園中学校高等学校と共同で実施（2017年8月）
- ・ 本校主催の教員養成に ASPnet の先生をお招きした（横浜市立永田台小学校より2名）。
- ・ 多摩市立第1小学校への人材協力（ワークショップ提供）

⑥ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

特定の活動に偏らない「暗示型 ESD」と呼ばれる当校の ASPnet 活動では、その効果を明瞭に抽出することが困難ですが、当校の活動に ESD の光を当ててきたことが児童生徒のバランスのとれた成長に少なからず寄与していると思われます。

また、「地球規模の気候変動」という大きなテーマをいただいたことで、教職員や保護者のなかに、ライフスタイルの見直しや国際社会との連携への意識がより明確になりました。



(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

- ・ ESD重点校形成事業の総まとめとして、当校の教育のESD性を明らかにし、それを報告書にする。
- ・ 機関包括型アプローチプロジェクトの継続として、地球規模の気候変動に関する学内アンケートを実施する。
- ・ ESD重点校形成事業および機関包括型アプローチプロジェクトの報告会的な位置づけで公開研修を開催する。
- ・ 神奈川県ユネスコスクール連絡協議会のメンバーとして、12月8日(土)に横浜で開催予定の第10回ユネスコスクール全国大会の企画運営に参加する。
- ・ 神奈川県ユネスコスクール連絡協議会のメンバーとして、12月15日(土)に玉川大学で開催予定の第4回ユネスコスクール神奈川県大会の企画運営に参加する。
- ・ 東海大学教養学部が毎年開催するユースセミナー(会期未定)に参加する。
- ・ ほか